

都倉文化庁長官のキーノート・スピーチ（概要）

- イタリア議長による本会合開催とホスピタリティに感謝。また、各国より日本で開催中のオリンピックに祝意のメッセージをいただき感謝。
- 日本は、春から冬まで 4 つの季節に分かれ、何代にもわたり豊かな自然の恵みを楽しむ。日本の伝統や宗教、文化の中に、こうした母なる自然への崇拜や畏怖の念が見られる。俳句に用いられる季語もその一例であり、四季の美しさを表現。
- しかしながら、気候変動の影響により、母なる自然や四季の移り変わりに変化。広重や北斎の浮世絵に描かれた江戸の雪景色は、現在の東京ではあまり見られない。
- 激甚化する災害は文化遺産にも深刻な影響。昨年には、建立から千年以上もの間洪水が達することのなかった神社が浸水した。
- これらを踏まえ以下 3 点の重要性を強調したい。
 - （1）急激な気候変動に対して脆弱な文化遺産のメッセージを深刻に受け止めること
 - （2）危機を克服してきた祖先から学び、その知見を最新の技術や科学によりさらに強化すること
 - （3）各国が協力して、気候変動を食い止め、激甚化する災害に対処すること
- また、文化芸術の重要性について、東日本大震災で津波被害にあった福島県において、停電が続く仮設住宅に住む被災者にとり、電気の次に必要なものは「音楽」であった。文化芸術は人々にとって生きる糧であり、文化芸術へのアクセス確保は基本的人権。SDGs の 18 番目の目標として、文化芸術も加えるべき。
- 祖先から伝えられたものにより我々がここにあることを再認識すべき。貴重な遺産の子孫への継承は我々の義務である。